

文部科学省平成24年度大学間連携共同教育推進事業
関西大学・津田塾大学
The Writing Centers Association of Japan(WCAJ)協賛

シンポジウム
「ライティング・センター日本の現状と課題」

2013年3月16日(土) 13:00～

関西大学 尚文館1階マルチメディアAV 大教室

大学ライティング・センターを利用する書き手たち
—国語科教育から見た
日本におけるライティング・センターの役割—

早稲田大学 留学センター准教授

佐渡島紗織

早稲田大学 アカデミック・ライティング・プログラム

■ 学術的文章の作成、大学院授業 12年

修士論文、博士論文の執筆に向けて
文章指導員、チューターの育成のために

■ ライティング・センター 9年

学部生、大学院生、教員の利用のために

■ 学術的文章の作成、学部授業 5年

初年次教育の一環として

ライティング・センターの利用

年間(2011秋～2012春)の利用状況
(本キャンパス＋分室)

◆セッション数 **2928セッション**

◆利用者数 **1262人**

(学部生52%、大学院生46%、教員2%)

早稲田生、約58000人の**2.17%**

・・・98%の学生は、利用経験がない！

本講演の問い

- ◆ライティング・センターは、
日本の学生にとって、有効なのか？
- ◆なぜ、利用者が少ないのか？
- ◆これから先、日本のライティング・センターは、
どのような点を目標としていったらよいのか？

次第

1. アカデミック・ライティングに対する
日本の大学生の認識
2. アメリカにおける文章作成指導
3. 日本における文章作成指導
4. 日本のライティング・センターに求められる
役割

1. アカデミック・ライティングに対する日本の大学生の認識

大学2年生、3年生28人への調査(2008年)

本に書かれている特定の部分を、自分の文章の中で紹介しながら意見を述べます。次のどの書き方が適切ですか。

1. 本の記述を自分のことばに言い換えてく自分の考えの一部として>書く。
数名
2. 自分のことばに言い換えたうえでく人が考えていることが分かるように>書く。
2割
3. 自分のことばに言い換えたうえで出典を示す。
半数
4. 引用をして出典を示す。
2割

出典は示さなくてよいと考えている。(1. の数名と2. の2割)

1. ←「ずっとこのように書いてきた。」
2. ←「塾でそうするように教わった。」

引用はしない方がよいと考えている。(8割)

←「引用をすると、ただ書き写しているので、文章が幼稚に見えてしまう。」

2008年開講「学術的文章の作成」

(全学規模、オンデマンド授業、全8回)

学術的な文章を作成するための基本的な技能を身につける。
...学問をする基礎的な姿勢を身に付ける。

(学問は、先人達が築いた知識をふまえて、新しい知識を創造し、発表すること)

- ◇「剽窃をしないために」(第1回授業の手前)
- ◇「参考文献表の作り方」(第6回)
- ◇「ブロック引用の仕方」(第7回)
- ◇「キーワード引用の仕方」(第8回)

剽窃をした学生（每学期2人～5人発覚）

- ◆ 普段から話題集を作ってUSBに保管している。こんなテーマでレポート課題が出そうと思うテーマについて、複数のインターネット・サイトから文章をコピーして貯めておく。
- ◆ レポート課題が出たら、インターネットで検索して、種々のサイトを読み、どの記述が自分の考えに一番近いかを見て、それをコピーする。

何のための学問なのかが理解できていない。

- ⇒ これまでに発表された先人達の研究成果は大いに盛り込んでよい。
- ⇒ 誰が、どこで、何と言ったかを、そのまま報告すればよい。
- ⇒ 先人達の築いた知識の「穴」「不足」を埋めるべく、自分の考えを主張すればよい。

2. アメリカにおける文章作成指導

ライティング・センターが生まれた背景

教育の理念

日本の小学校の玄関や廊下で
よく見る掲示は？

廊下は静かに歩きましょう。

規則を守る 共通のルールをみんなを守る

アメリカの小学校の玄関や廊下で
よく見る掲示は？

You are Special !

かけがえのない自分 大切な自分 個
一人ひとりを育てる

You are Special !の社会的背景

農業社会から工業社会へ1900年代始め

(農地で農業の担い手→都市部で雇用)

公教育費を自治体がまかないきれない。自治体によって不公平が生まれる。

Cubberley , E. P. (1906)*School Funds and their opportionment.*(『学校財政の配分』)

州政府が果たすべき義務は、できる限り高度な、最低限のよい教育をすべての子どもに保障することであり、しかも、すべての子どもたちがこの最低限の教育だけにとどまらずにしておくことである。(p.16)



産業の<効率性>原理と教育研究の<科学的方法>が学校教育にも浸透した。
(刈谷剛彦2009,p.84)

➡ 平等の概念は、「個」が単位

教員の労働力を測定する単位 Pupil-Hours (生徒時)
受け持っている生徒数 × 教えた時間
(30人の学級 × 4時間 = 120生徒時)

You are Special !の社会的背景

進歩主義教育の台頭

スタンレー・ホール

scholiocentric → pedocentric (1902)

子どもが学校に合わせるのではなく、学校が子どもに合わせる

ジョン・デューイ

シカゴ大学付属のデューイ・スクール (1917)

キルパトリック

「プロジェクト・メソッド」(1918)

われわれの根本原理は、結局、子どもは、自ら賢明に目的を設定し、知的に計画し、自ら作成した計画をよりよく実行することを学び、さらに、その自分の行動の結果から学ぶできたということである。

➡ 「個」の能力やペースに合わせた教育が、
平等で優れた教育



到達度別グループ学習



到達度別グループ学習
(グループ以外の生徒は自習)

「個」のペースで学習できる アメリカの小学校の時間割

時間割(略図)

Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5
Main-stream classroom	Main-stream classroom	Main-stream classroom	Main-stream classroom	Main-stream classroom
P.E.	Art	P.E.	Music	Drama
Social /Natural Science	Social /Natural Science	Social /Natural Science	Social /Natural Science	Social /Natural Science

文章作成指導への反映

Writing as a Process Movement (1983～)

何について書くかを選ぶ...Conference
どのような種類の文章を書くか選ぶ
マップなどで構想を練る...Conference
下書きをする...Conference
書き直す
清書する

学級の人数

20人学級

25人以上になった場合は、副担任がつく

教師が机間を巡る...Conference

教師が各児童と2分ずつ話しても40分

参考文献を明示させる指導

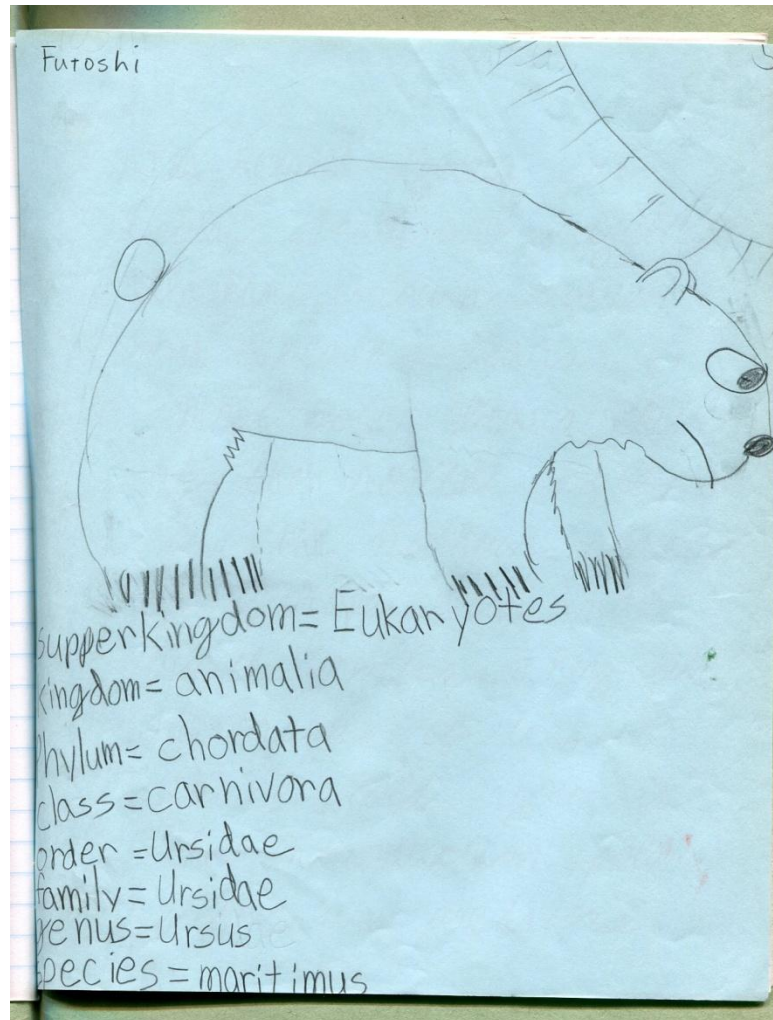
アメリカでは、
何年生で参考文献を挙げさせる？

二年生で
参考文献表を作成させる

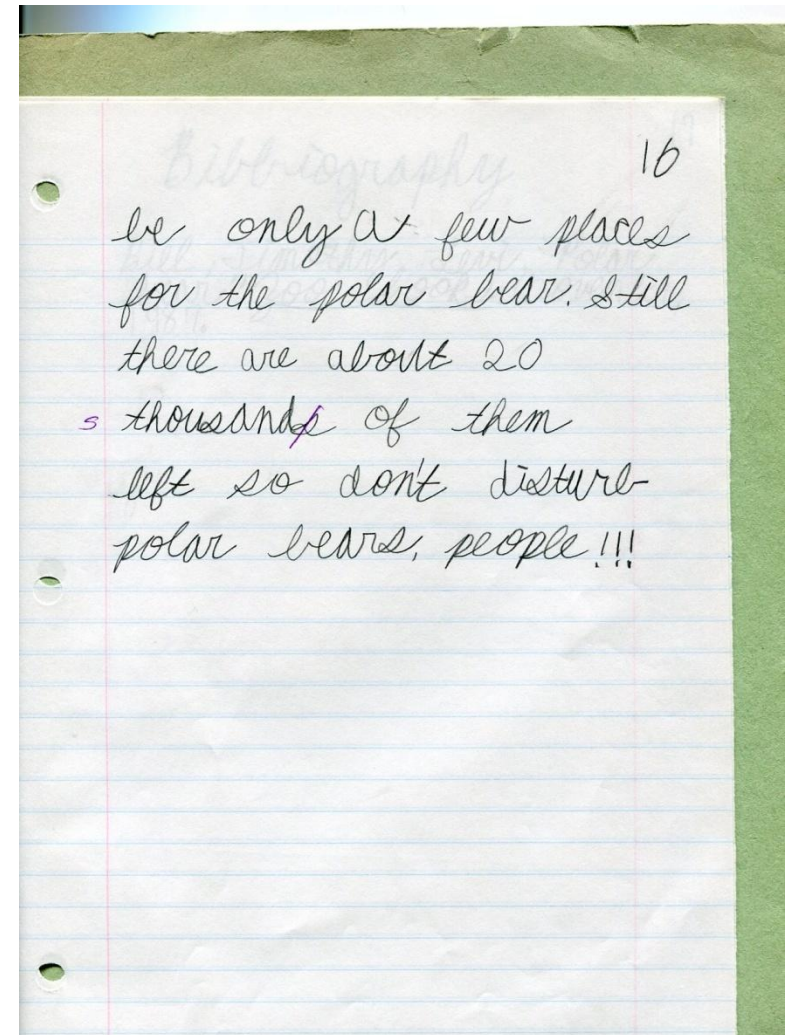
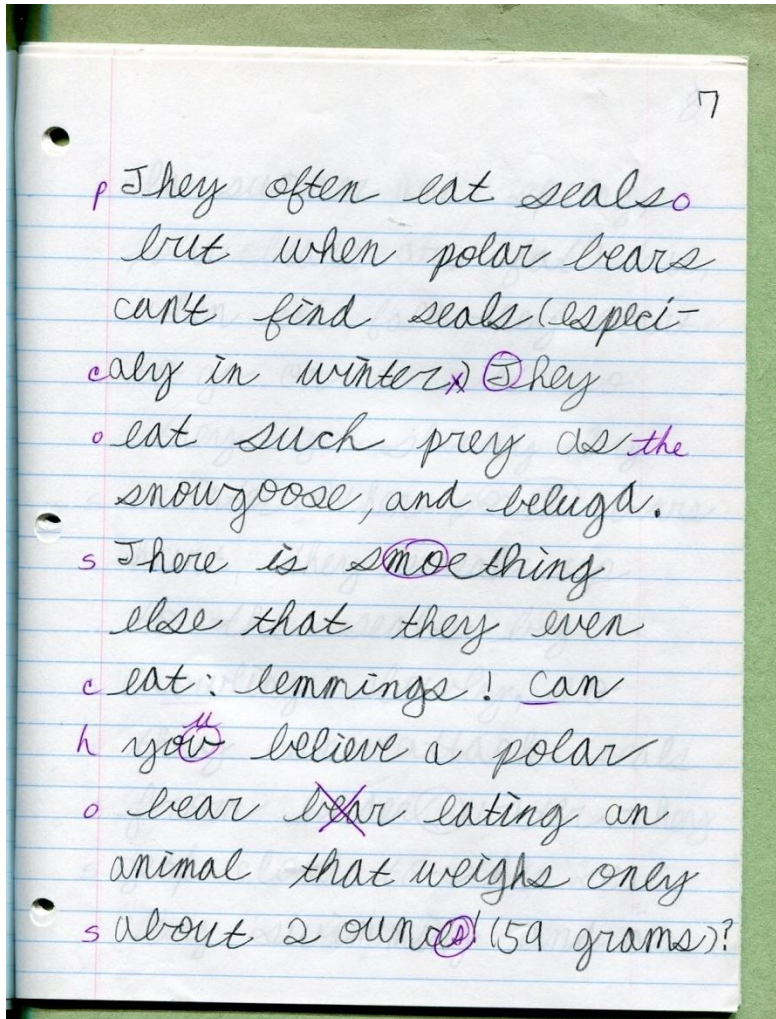
イリノイ州での「ライブラリー」授業



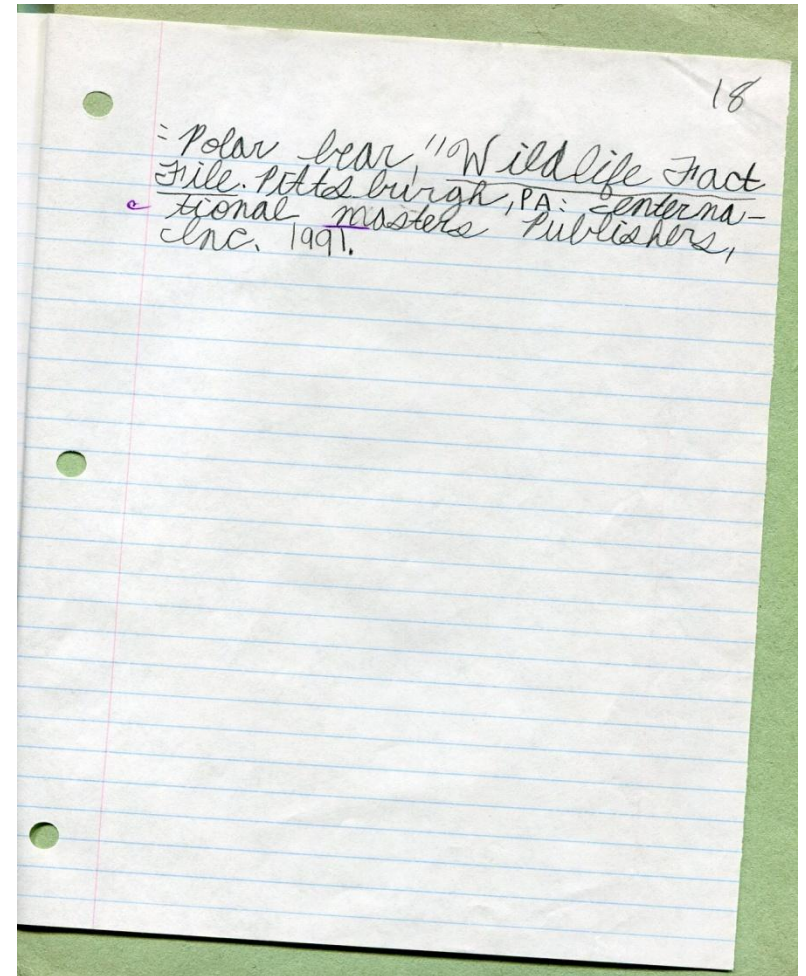
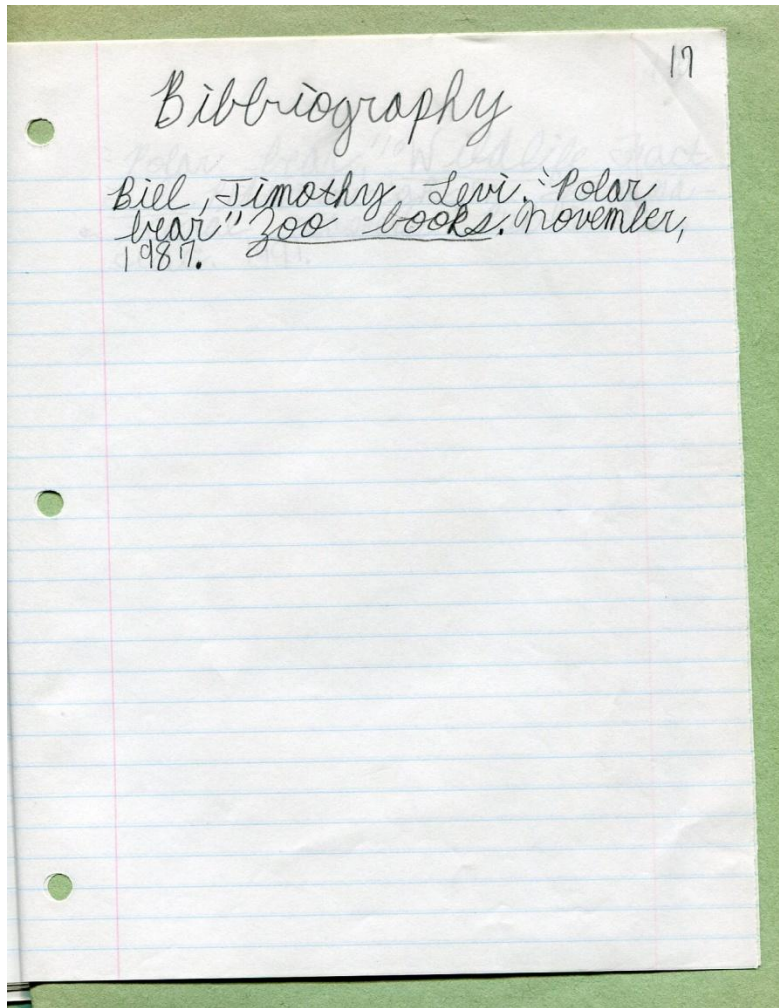
「ライブラリー」授業でのレポート(3年生)



「ライブラリー」授業でのレポート(3年生)



「ライブラリー」授業でのレポート(3年生)



広く多く参考文献にあたらせる指導

カードを使った

レポート作成指導（高校2年生、国語科）

【文献カード】 本、雑誌、新聞、年鑑、辞書、事典 に広くあたる。

1. どのような文献かを示す。
2. 何に使える文献なのかを複数書かせる。

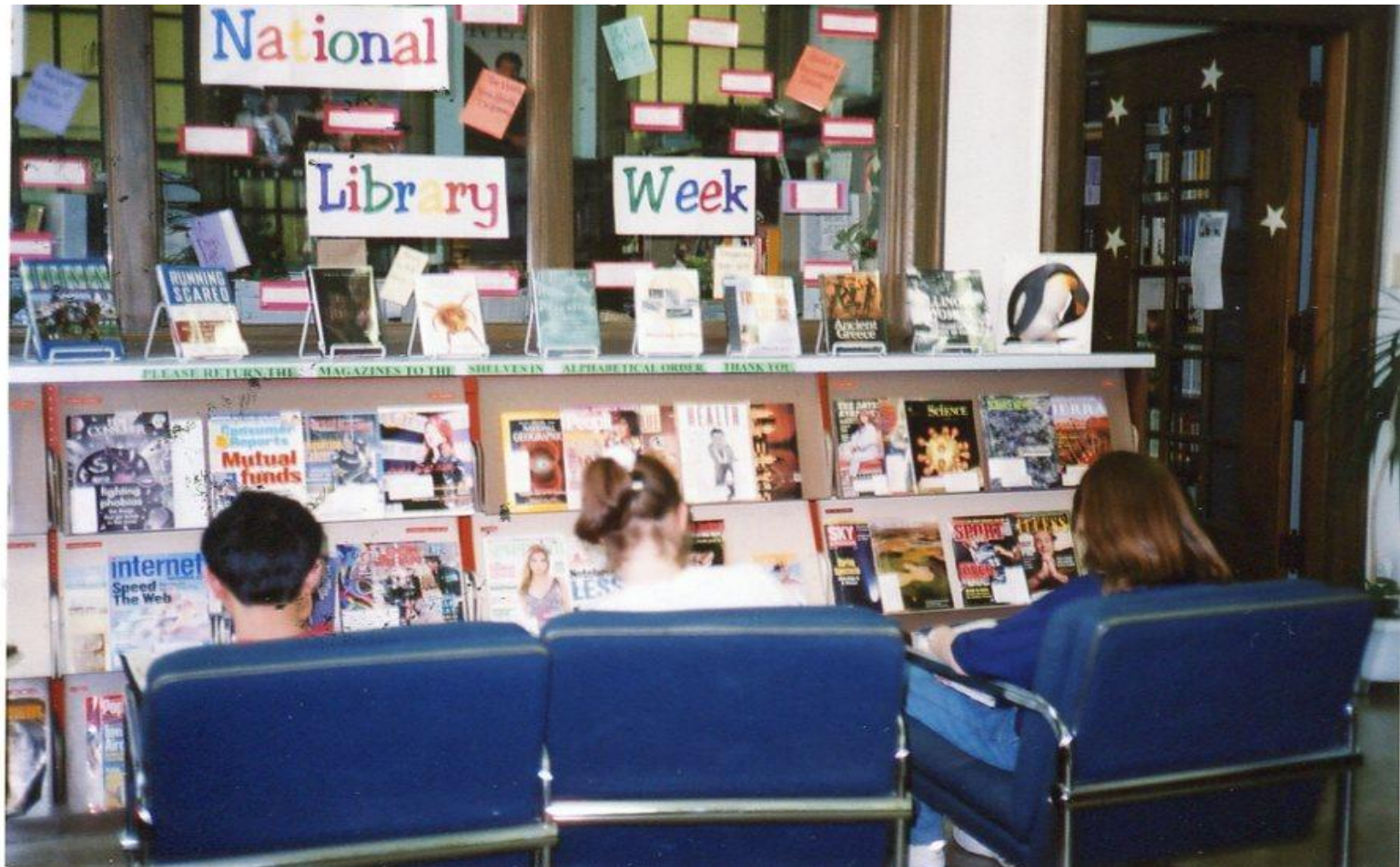
週に6冊以上ずつ提出（全部で50以上の文献を読む）

【引用カード】

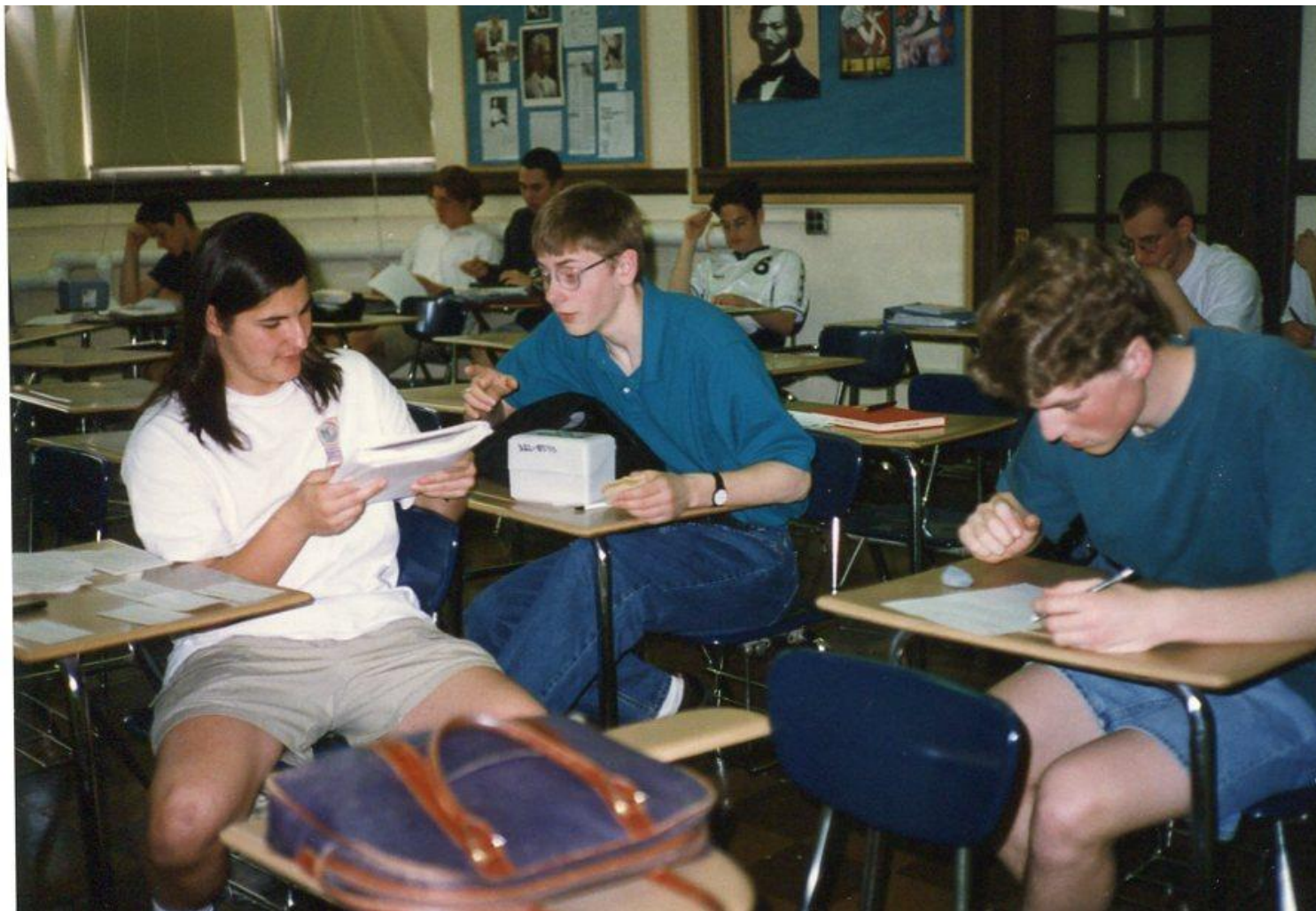
1. 誰が、どの文献で、何と述べているかの引用を示す。
2. 引用箇所をどのように利用できるかを複数書かせる。

週に18枚以上提出（全部で200枚以上用意する）

広く多く参考文献にあたらせる指導



広く多く参考文献にあたらせる指導



広く多く参考文献にあたらせる指導



文章の種類、特徴を明示的に指導

(資料1参照) 小学校4年生

様々な種類の文章を書かせる

文章の種類における特徴を指導して書かせる

◆ Interview Sketch (Moffett, p.79)

◇ その人が実際に言ったことの引用と、その人の言ったことを自分の言葉で言い換えたものを混ぜて報告する。

◇ 順序は、発言の通りでなく話題ごとに変えてよい。

◇ 自分の質問は引用しない。

◆ Play Script (Moffett, p.188)

アメリカにおける文章作成指導(まとめ)

- ◆個別指導に、教師も生徒も慣れている。
- ◆過程での指導に、教師も生徒も違和感がない。
- ◆文章の種類によって書き方が異なることを明示的に指導されている。
- ◆アカデミック・ライティングの経験を積んでから大学に入学する。

こうした状況のなかで、**ライティング・センター**が誕生し、存在する。

3. 日本における文章作成指導

教科書教材・入試問題にみる文章作成指導

中学校における文章作成指導

中学校の教科書にみる文章作成指導

(光村図書指導書系統図 資料2参照)

書くこと①

- 学年が進むにつれて書く回数が減る
- 中学3年生では、「説明・紹介」をする文章は書かせない。「批判文」だけ。



**書く量が少ない
多様な文章の種類について理解していない**

・・・状況に応じた文章が書けるようになるには、
経験が不十分(佐渡島、2003)

文章作成技能の指導

「批判文を書く」教科書単元(中3)(資料3参照)

- 立場を決めるために**多くの文献にあたること**は奨励されていない。
- 自分の文章にどう組み込むか、**引用の方法、出典明示の方法**が指導されていない。
- **生徒作例**に引用があるが、出典(参考文献、引用元ページ)が示されていない。

高校における文章作成経験

島田康行(2012)

大学初年次生360人への質問紙調査

◆「国語」の授業において400字程度以上の文章を、
高校三年間で何回書いたか。

0回 41.2%

1～3回 22.1%

4～6回 15.1%

7回～ 21.6%

書く量が少ない

大学入試に向けた小論文指導

泉万珠男編(2010)『新・小論文演習ノート』36版、
p.24-25

(資料4参照)

- ◆「人口問題が関わっていることは確かである。」
本当にそうと**言えるのか**、**誰か**がそうと主張した
のか、不明。
- ◆「具体的な数字を挙げたのも説得力を高め」て
いるという評。 ⇔ 調査元は示されているが、**出
典**は示されていない。
- ◆ 歴史上の重要な提案について書いている。⇔ **引
用**されていない。(いつ、どこでの発言か不明)。

日本における文章作成指導(まとめ)

大学ライティング・センターを利用する書き手たち

- ◆ 中学高校の国語科授業で、**文章を書く経験**が非常に乏しかった。
- ◆ **個別指導を受けた経験**がほとんどない。
- ◆ **多くの文献**を読んだうえで立場を構築するという指導を受けていない。場当たりの文献を使ってしまう。
- ◆ **文章の種類**ごとにある、書き方の**特徴**を十分に理解していない。
- ◆ **文献を参照する仕方、提示する仕方**に関する適切な指導を受けていない。誤った認識すら持っている。

4. 日本のライティング・センターに求められる役割

日本のライティング・センターへの期待

学問を行う姿勢と連動した文章作成を教える

- **文献を広く多く**読んだうえで、自分の主張を表わすことを奨励する。

「先人達の築いた知識」を

- 読んだものに**即して検討・批判する**。(引用して、引用箇所を論じる。)

「踏まえて」

- 分かりやすく伝えるための**技能**を伝える。

新しい知識を「発表する」。

日本のライティング・センターへの期待

アカデミック・ライティングには、特定の技能を要することを理解してもらう

- **アカデミック・ライティング**という種類の文章において、使われる技能があることを説明する。
- **技能そのもの**を説明する。
- 文章を検討するための観点を、いくつか知るだけで**文章をよくしていける**と伝える。

日本のライティング・センターへの期待

過程で人が介在して行う文章修正に対して達成感を与える

- **書いている途中**で人に見せることはよいことだと伝える。
- **人の意見を介在**させて、書き直すことはよいことだと伝える。
- **何度でも書き直し**、文章をよくしていくことができることを励ます。

国語科教育からの反省...

ライティング・センターだけに
頼っていてはいけない

■ 小学校・中学校・高等学校での
積み上げが大切



小学校3年生から
引用・出典をさせる指導を提案(資料5参照)

日本におけるライティング・センターの 更なる発展に向けて

アメリカで発足したライティング・センターの理念

書き手への個別支援、書き手の意図を尊重

・・・踏襲する

日本の学校で育った書き手、特有の状況

・・・よく把握して調整する

ライティング・センターの機能と有効性・・・周知する

日本におけるライティング・センターの
更なる発展に向けて

日本におけるライティング・センター

アメリカにおけるライティング・センターとは
異なる発展経緯をたどってよい

日本独自のあり方を模索したい

参考文献

- 泉万珠男編(2010)『新・小論文演習ノート』日栄社
- 刈谷剛彦(2009)『教育と平等—大衆教育社会はいかに生成したか』中央公論新社
- 佐渡島紗織(2003)「文章表現指導における文種の取り扱い—アメリカにおける論争に学ぶ」『国語科教育』54、pp.27-34
- 島田康行(2012)『「書ける」大学生に育てる—AO入試現場からの提言』大修館書店
- 光村図書(2011)『国語3』文部科学省検定済教科書、中学校国語科用
- 光村図書(2011)『国語三下あおぞら』文部科学省検定済教科書、小学校国語科用
- 光村図書(2012)『中学校国語学習指導書総説編』
- Moffett, J. (J.モフエット).(1987). Active voices 1: A writer's reader for grades 4-6. Portsmouth, NH; Boynton /Cook Publishers

御清聴ありがとうございました。



sadoshima@waseda.jp